2013 年 5 月 8 日・福島民友では

詩集『悲しみの向こうに』

双葉出身の二階堂さん

双葉町出身の詩人・二階堂晃子さん（福島市）は、詩集「悲しみの向こうに－故郷・双葉町を奪われて」を出版した。

１章「悲しみの向こうに」は、同町に住む兄たちが、津波と原発事故で、古里を追われた記録「非日常の始まり―原発立地町からの脱出」をはじめ、避難の中で悲しい死を遂げた人の思いを詠んだ「こんな死なせ方をして」、放射能の恐怖を表現した「退治できない物質」などの作品を収録。２章は古里の母を介護した思いを詠んだ「介護日記」、３章は震災から立ち直る人々の絆を詠んだ「緩やかな絆」を収録した。

著者は「『悲しみの向こう』にはまだ何も明かりは見い出せない、しかし悲しみをそのままにしておいては、生きる力にならない。悲しみを存分に書き残すことが、今、私がなすべきことであると思うようになった」と後書きに記している。二階堂さんは県現代詩人会会員。コールサック社刊。

と紹介されています。